

第3章

学ぶ意欲をはぐくむ授業 － 研究協力校の実践 －

研究協力校における、アンケートの結果を踏まえた授業実践を
紹介します。

◆研究協力校の実践事例

1	岩舟町立静和小学校	25
	・児童に学習の流れを意識させる	
	事例1 理科4年「1日の気温の変化」	
	・身近な題材を取り扱うなど、課題の設定を工夫する	
	事例2 算数4年「式と計算」	
	・校内研修での取組	
2	さくら市立南小学校	33
	・子どもの興味・関心から学習課題を設定する	
	事例1 総合的な学習の時間3年「いろいろな仕事調べ」	
	・個のよさが生きる言葉かけをする	
	事例2 総合的な学習の時間3年「新聞記事から考えよう」	
	・人間関係に配慮して安心して学べる環境をつくる	
	事例3 学級活動6年「教室からなくそう NG サイン」	
	・学び合いで深い思考を促す	
	事例4 算数6年「順序よく整理して調べよう」	
	・一人一人の子どもを励まして、主体的な行動を促す	
	・思考の跡を残すことで、考えを深める	
	事例5 体育4年「ネット型ゲーム『プレルボール』」	
	・学校行事を通して挑戦すること、努力することの喜びを体験させる	
	事例6 学校行事「持久走大会」	
3	那須塩原市立東那須野中学校	41
	・キャリア教育の充実を通して、自己を見つめさせる	
	事例1 学級活動2年「職業について」	
	・体験を重視して、情報収集能力の向上を目指す	
	事例2 総合的な学習の時間1年「地域に学ぶ」	
	・学習の手順やゴールの姿を示し、進んで取り組ませる	
	事例3 国語1年「本の世界を広げよう」	
	・校内研修の取組	
4	佐野市立西中学校	49
	・学習課題を工夫する	
	事例1 社会3年「模擬裁判をやってみよう」	
	事例2 数学3年「二次方程式の利用」	
	事例3 英語2年「How can we find out?」	
	・相互に学び合う場を多く設定する	
	事例4 音楽2年「混声合唱の豊かな響きを味わおう」	
	・学習状況について情報を共有する	
	・学習習慣を確立する	
	・学びたくなる環境を整備する	
	・家庭学習の習慣化を支援する	
	・学習に関するアンケートを定期的に実施する	

◆取組のポイント

*以下、学校名を静和小と表記

- 全教員が学ぶ意欲のプロセスに着目し、アンケートの結果を生かした授業づくりに取り組んだ。
- 全教員が授業を年間1回以上公開し、お互いに参観し合った。(要請訪問とは別に実施)
- 「学ぶ意欲をはぐくむための授業づくり」をテーマに夏季休業中にワークショップ型校内研修を実施するなど、教員が学び合う場を設定した。
- それぞれの教員が学ぶ意欲の向上に関する自己の取組をまとめ、冊子にすることで、学ぶ意欲を高める手だてについて共有化した。

◆学校課題との関連

研究主題：自分の思いや考えを生き生きと表現できる子どもの育成
 ～各教科等における言語活動の充実を目指して～
 目指す児童像

- ・自分の感じたことや考えたことを分かりやすく表現する子ども
- ・生活経験や資料などを基にし、根拠をもって自分の考えをもてる子ども
- ・学んだことを生かしながら、自ら進んで課題解決に取り組む子ども

静和小では、お互いの立場や思いを尊重して、自分の考えをしっかりと伝える力が、子どもたちの主体的な学びや実生活に生きて働く力と考え、研究主題を設定しました。学ぶ意欲の構成要素に働きかけた授業を展開することは、本校の目指す児童像の実現につながるものと考えられます。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

4年生のあるクラスの結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
3.36	3.70	3.93	3.89	3.82	3.05	3.68

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
3.66	3.25	3.73	3.32	3.57	3.50

この学級は、すべての構成要素で非常に高い数値を示していますが、有能感が低めでした。このため担任のA教諭は、有能感を高めるために様々な構成要素に働きかけて成功体験を積み重ねること、また構成要素によって数値の差が大きい児童への働きかけを工夫することを意識して、学級経営と授業づくりに取り組みました。

二つの研究授業における学級全体及び個への働きかけと、授業研究会の成果を紹介します。

(1) A教諭の取組

児童に学習の流れを意識させる

事例1 理科 4年 「1日の気温の変化」

ねらい	1日の気温の変化の仕方は、天気によって違いがあると考えることができる。
本時の概要	1 グループごとに1日の気温の変化の表をグラフにする。 (1人で1日分担当し、グループで4日分作成) 2 4枚のグラフを比較し、気付いたことをまとめる。 3 各自がまとめた気付いたことについて、グループで話し合い、気温の変化の仕方は何によって変化するのかを考える。

振り返りカードの工夫（有能さへの欲求、知的好奇心、充実感）＊

＊（ ）内の構成要素に働きかけることを表しています。以下同様。

使用した振り返りカードには、次のような特徴があります。

- ・各時間の学習のねらいが示してあり、児童は見通しをもって学習活動に取り組むことができる。
- ・めあてに対する自分の頑張りや達成度、授業における気付きを確認することができる。

理科振り返りカード 1日の気温の変化

4年2組 ()

☆ 1日の気温の変化の謎をさくろう！ ☆

😊😊😊 とてもよくできた 😊😊😊 だいたいできた 😊😊😊 もう少しできそう

時間	めあて	振り返り	感想
1	①百葉箱（ひやくようばこ）のしくみが分かりましたか。	😊😊😊	百葉箱は風が入ってきたり空気がたいていさかかった。百葉箱の中は温度計がありすごくいさかいあってビックリした。もっと百葉箱も調べたい。
	②ぼう温度計を見て、気温を読み取ることができましたか。	😊😊😊	
2	①ぼう温度計を見て、気温を記録できましたか。	😊😊😊	雲が全然ないときは晴と言う名前だった。晴れで空をとって写真を撮たらさう見たかったけどよく見たら空だった。自分でも空を調べたい。
	②空に雲があるときの、晴れとくもりのちがいが分かりましたか。	😊😊😊	
3	①測定表からグラフを作ることができましたか。	😊😊😊	1日の気温の変化の謎は、1日の気温の変化は天気によってちがうことが分かった。1〜6は今までにはくもり雨が
	②「1日の気温の変化」のなぞをとくことができましたか。	😊😊😊	あった。気温のなぞがとけてよかった。
4	①記録温度計のしくみがわかりましたか。	😊😊😊	百葉箱のきき録温度計は朝夜まではかいてあることがわかってよ。記録温度計は5月のときが見え
5	①この単元で学習したことをまとめた新聞を作ることができましたか。	😊😊😊	新聞を作って記事がまとまっていたけれど、まだきつくない感じが、けいんと新聞を作りたい。

ゴール：1日の気温の変化の謎を解くことができる！！

他の児童のカードには、5時間目の新聞作りについて、次のような記述が見られました。

- ・新聞もうまくできてうれしかったです。できたら冬の気温も調べていきたいです。
- ・新聞完成！「おめでとう」って自分に言いたいな。ふしぎがすべてとけたよ。

有能感

知的好奇心

身近な題材を取り扱うなど、課題の設定を工夫する

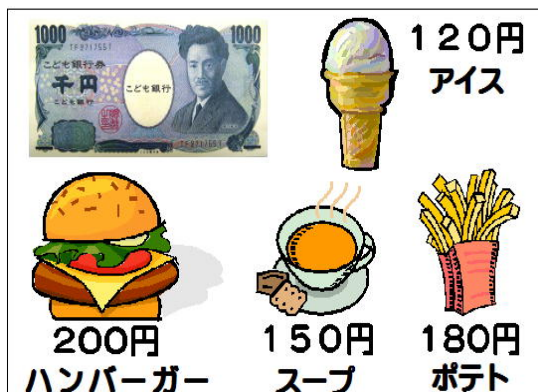
事例2 算数 4年 「式と計算」

ねらい	買物の場面を考え、問題を作ったり、四則混合の式や（ ）を使った式に表したり、式から場面を想像したりすることができる。
本時の概要	1 ねらいの提示「問題作りをしよう」（お店のメニュー表を提示） 2 教師が提示した問題から、立式の練習をする。〔一斉・個人〕 3 各自が、問題を作る。〔個人〕 ・買物の場面をイメージし、ホワイトボードに絵カードと数字を組み合わせながら、式を考える。 ・ワークシートに問題文を書く。 4 グループで、問題を出し合い解き合う。〔グループ〕 5 教師が意図的に選んだ問題を解く。〔一斉・個人〕 6 発展的な問題として、教師が提示した式（子どもからは出てこない型）から問題文を考える。 7 振り返りカードを書く。

教材教具の工夫（知的好奇心、自発学習）

導入では、買い物の場面を取り上げ、下図のようなメニュー表を提示し、商品の絵カードを配付しました。

ハンバーガーショップ メニュー表



〔具体物を活用したことの効果〕

- ・買い物の場面を想像できた。
- ・文章問題を作るときに、絵カードを使った式に表してから問題文を考えると、作りやすい。
- ・友達が作った問題を解くときに、ホワイトボード上で、絵カードを動かしながら考えられるので立式しやすい。

〔子どもが立てた式の例〕

$$\begin{aligned}
 (\text{アイス} + \text{ポテト}) \times 3 &= (120 + 180) \times 3 \\
 &= 300 \times 3 \\
 &= 900
 \end{aligned}$$

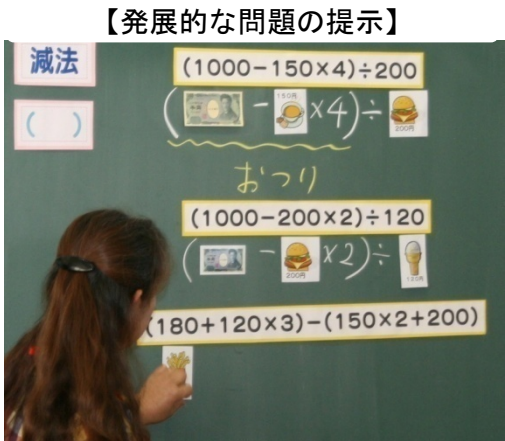
問題

- ・120円のアイスと180円のポテトを3つずつ買います。代金はいくらでしょうか。

発展的な問題の提示（挑戦行動）

【発展的な問題を取り上げた活動の効果】

- ・ 友達の問題よりも、複雑であったことにより、「難しい問題に挑戦する」という気持ちが高まった。
- ・ 式の意味を問うことにより、新鮮さが感じられたようだ。
- ・ 式には意味があることと、様々な出題が可能であることに子どもが気付いた。



【発展的な問題の提示】

【本時の子どもの振り返りから】

- ・ 問題を作ったり、友達が作った問題を解いたりすることが楽しかった。
- ・ ○○さんの問題は、たし算、かけ算、ひき算があって、よい問題だと思いました。
- ・ 先生の出してくれた難しい問題がおもしろくて、勉強になりました。

【第1回と第2回アンケートの比較】

要素	安心して学べる環境	知的好奇心	挑戦行動	有能感
第1回	3.36	3.70	3.73	3.05
第2回	3.88	3.86	3.98	3.66

安心して学べる環境のもと、知的好奇心や挑戦行動を中心に働きかけたところ、数値に伸びが見られました。日々の授業の中で、一人一人の子どもの発言を受け止め、ほめたり励ましたりしながら指導した結果、有能感も高まっています。

アンケート結果から気になる児童への支援

第1回のアンケート結果から、要素による差が大きい児童に視点を当て、事例2の算数の授業を通して意図的な働きかけを工夫しました。

	Kさん	Mさん
普段の様子	・ 気持ちにむらがあり、やる気になるとどんどん取り組むが、調子がでないときははかどらない。	・ 学習面ではあきらめが早く、大きな声で「分からない」と叫ぶことが多い。
授業での関わり	・ 問題作りでは、「それでいいんだよ」など、励ましの声をかけた。 ・ 問題を解く活動では、グループ内で相談し合うことで、深い思考へと向かわせ、問題を解く楽しさを味わわせた。	・ 教師からの声かけを多くし、集中して取り組ませた。 ・ 問題作りは苦勞することが予想されるため、具体物を使って立式することにより、問題文につなげた。

【Kさんの単元全体の振り返り】

いろいろな式や計算をして、とても楽しかったです。それは、自分で問題を作ったり友達の問題を協力して解いたりしたからです。いろいろな計算をしたので、どんな問題でも解ける気がします。私は、算数が好きなので、もっと難しい問題にチャレンジしたいと思います。

振り返りの記述から Kさんは協同学習のよさや学ぶ楽しさを実感していることが分かります。「もっと難しい問題にチャレンジしたい」とは、学ぶ意欲の構成要素の「挑戦行動」であり、新たな学ぶ意欲に繋がったと言えます。

【Mさんの単元全体の振り返り】

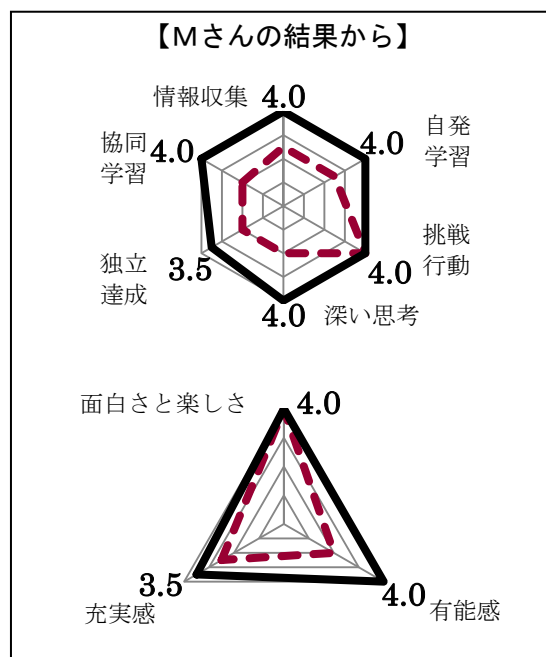
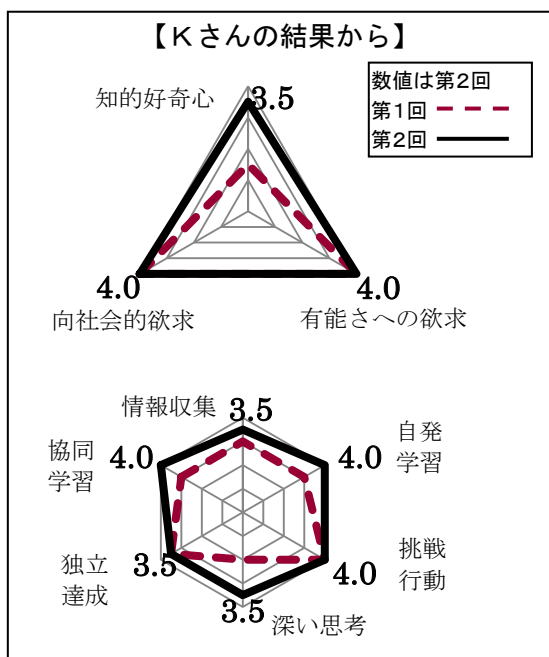
計算が早くできるようになって、一から÷まで完ぺきにできました。

2けたの引き算もあるので、がんばって完ぺきにしたいと思います。「おまかせ名人」*にはなっていないので、「おまかせ名人」になりたいと思います。

*は、本単元のめあて「計算おまかせ名人になろう」からきています。

Mさんは、算数に対して苦手意識をもっていました。単元を通して、計算が正確にできるようになったことで、「有能感」が得られたと考えられます。

第2回のアンケート結果は、次のようになりました。二人ともほとんどの要素で数値が伸び、バランスもよくなっていることが分かります。



教師の振り返り

- ・視点を当てた二人の子どもを重点的に見たことにより、その二人は安心して学んでいました。
- ・Kさんは、導入での買い物の場面に興味をもてたので、時々励ます程度で、自分から学習を進めることができました。
- ・普段のMさんは、大きな声で、「先生、先生。」と呼び、「分かんないよ。」と言っていました。本時では、何度かそばに行って指導したため、大きな声を一度も出さずに、問題作りに取り組みました。問題の解決策が分からないMさんは、これまではいつも寂しい思いをしていたのだと感じました。

(2) 校内研修での取組

事例2の授業研究会では、参観した先生方からの気付きとして、子どものつぶやきを受け止めつつテンポよく進めるすばらしさ、課題の提示の工夫による知的好奇心の高まり、発展的な問題の準備による挑戦行動の高まりなどが出されました。課題についても検討され、解決策を考えていきました。

下の表は、授業研究会で出された付箋を学ぶ意欲の視点でグルーピングしたものです。

授業の流れ	授業研究会で出された意見
1 ねらいの提示 (ハンバーガーショップのメニュー表を提示) 「問題作りをしよう」	知的好奇心 ・身近な教材に興味をもって取り組んでいた。 ・具体物が有効で、絵カードと数字を組み合わせて式を作るのが分かりやすかった。 安心して学べる環境づくり ・Kさんが自信なさそうに首をかしげていた。先生が「いいんだよ。これで。」と声をかけていたので、式と答えが書けた。
2 教師が提示した問題から、立式をする練習をする。 〔一斉・個人〕	
3 各自問題作りをする。 〔個人〕	有能感 ・1000円札の使い方について、質問すると、「おつり。」と答えた。「さすが！頼りになるね。任せたよ。」との声かけに嬉しそうだった。 ・「みんなが作った問題は、宿題にしたり、朝の自習にしたりして解いてもらうよ。」の言葉に「うれしい。」という声上がる。 有能さへの欲求 ・問題の作り方の説明がポイントを押さえていたので、学習の見通しをもって、取り組めた。
・買物の場面をイメージし、ホワイトボードに絵カードと数字を組み合わせながら、式を考える。	
・ワークシートに問題文を書く。	自発学習 ・1問目は先生が絵カードで説明して立式、2問目は1問目に習って自分で立式することができた。
4 グループで、問題を出し合い解き合う。〔グループ〕	
5 教師が意図的に選んだ問題を解く。〔一斉・個人〕	挑戦行動 おもしろさ・楽しさ ・先生が作成した応用問題に対して「解いてやる！」と意欲を見せた。 ・式から問題を考えるという角度を変えた問題は、さらに意欲を刺激していたように思う。
6 応用問題として、教師が提示した式（子どもからは出てこない型）から問題文を考える。	
7 振り返りカードを書く。	新たな学ぶ意欲 ・振り返りカードには、「もっと解きたい」「応用問題が楽しかった」などあり、意欲が高まっていた。

教師の意欲が高まる校内研修

夏休に子どもたちの学ぶ意欲を高めるために、ワークショップ型の校内研修を行いました。

それぞれの教員が、学ぶ意欲のプロセスモデルを参考に、授業で実践していることや考えられるアイデアを付箋に書き、紹介しました（p 62 参照）。この研修をきっかけに、個々の教師が学ぶ意欲をはぐくむ要素に着目し、日々の授業に取り組むようになりました。その結果、事例 2 の授業研究会では、学ぶ意欲の視点からの意見が数多く出されました（p 64 参照）。

【学ぶ意欲の視点からの協議の様子】



授業研究会後の先生方の声

- ・学ぶ意欲が育つプロセスを知って、いろいろな角度から授業を観ることができるようになりました。また、子どもの立場で参観し、その場その場で、意欲の高まりの度合いを考えるようになりました。
- ・授業を参観する際は、子どもの表情が変わる瞬間を見て、その理由を考えるようになりました。
- ・自分では気が付かなかった視点での意見がいくつか出されていて、参考になりました。今後、授業をする上で生かしていきたいと思います。
- ・校内研修を実施することにより、教員の学ぶ意欲も高まっていると思います。

研究の成果を実感する冊子

12 月には、学ぶ意欲について取り組んできたことを、各教師がレポートにまとめ、読み合いをして指導法の共有化を図りました。

第 1 回アンケートの結果、数値が低めであった構成要素に対して、各自がどのような働きかけをしたのかについて発表し合うことで、成果と課題が意識されました。

自分の学級以外の授業に出る場合には、その学級のアンケート結果に目を通し、学級担任と重点目標を共有して授業をすると、学ぶ意欲を高めるのに効果的です。

【教師のレポート】

◇教科・教材名 (国語科 人物の考え方や生き方をとらえよう わらぐつの中の神様)
◇働きかけた要素 (協同学習 安心して学べる環境 両向きと声しき)

1 授業における働きかけの工夫

単元の中でグループでの話し合い活動を多く取り入れ、まず協同学習に慣れるようにした。慣れることで緊張せずに自分の意見を出せるようにしたいと考えた。自分の意見に自信がないと思われる児童には、個別に「これ、すごくいいね！発表してあたる？。と声をかけた。また、人物の人物を読み取り話し合う際に、100の正体をさぐろう！と書くなど、関心や楽しさを育てるような投げかけをした。

2 子どもの様子

グループ活動は慣れていくにつれて、徐々に活発な話し合いになっていった。協力（意見を、友達の話を真剣に聞く。）も自然とできるようになった。しかし、慣れたからといって、自分の意見を「進んで」言うということは全員にできておらず、中心となる児童で進めてしまう様子が見られた。特に自信がない児童は、周りの友達に聞かれると発表できるが、笑顔で安心して話しているという様子ではなかった。

人物の人物を話し合うことに限らず、例えば「ロマンチスト」などのいろいろな人物を想像することで、時々笑いがおこるなど面白く、楽しみながらできたようだった。

3 成果と課題

経験回数を増やして徐々に自発的に協力できるようになってほしいと思ったが、国語だけでなく、児童が自信を得るような成功体験や協同学習の面白さを感じられるような経験をさせたいと変わらないのではないかと思った。安心して学ぶためには、グループの友達が話しやすいかどうかは重要なようで、どんなグループになってもある程度は安心して自分を出せる雰囲気や人間関係を構築することが重要だと思った。また、言葉の言い出しひとつで子どもの考え方・モチベーションが変わると思った。

4 感想（授業や本研究に関することについてお書きください）

学ぶ意欲を高めるために、いろいろな要素・原因があると知ることができて本当に良かった。今まで無意識にやっていたことも意識してみると、とても意味があったように感じた。データをもとに、児童にポイントにも働きかけることができるのは、無駄がなく、早くその児童の能力を伸ばせることにつながるのではないかなと思う。今回だけでなく、定期的に振り返ることができればいいと思った。

◆取組のポイント

*以下、学校名を南小と表記

- アンケート結果を分析し、各学級で重点的に働きかける要素を決めて実践した。
- 教師が受容的に子どもと接するとともに、子ども同士の良好な人間関係づくりを支援して、安心して学べる環境をつくった。
- 日々の様々な教育活動の中で、一人一人の意欲の状態に応じた指導を行った。
- 家庭との連携を図って、学ぶ意欲を喚起した。

◆学校課題との関連

研究主題：わかる・できる・楽しい授業をめざして
～自ら考え、伝え合い、学び合う活動の充実～

研究の重点

- 目指す授業実現のために
 - ・伝え合い、学び合う活動を充実するための指導法の工夫や授業改善の手法
- 授業を支える手立て
 - ・伝え合う力を高めるための日常場面での指導の工夫
 - ・意欲向上のための学習環境の工夫
 - ・児童の実態把握や保護者への啓発
 - ・Q-Uテスト年間2回実施

南小の学校課題と、学ぶ意欲の「協同学習」や「深い思考」、「安心して学べる環境」とは関わりが深く、学ぶ意欲の構成要素に働きかけることは、学校課題解決の一助になると考えられます。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

	安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
3年B組	3.35	3.42	3.60	3.54	3.64	2.72	3.74
4年D組	3.05	2.83	3.20	2.77	3.22	2.28	3.33
6年C組	3.10	3.04	3.44	3.46	3.35	2.46	3.42

	情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
3年B組	3.34	3.26	3.22	3.30	3.38	3.20
4年D組	2.85	2.33	2.72	2.67	2.82	3.17
6年C組	2.73	2.85	3.06	3.10	2.73	3.15

観察から感じていた課題やアンケートの結果を基に、学級ごとに重点的に働きかける要素を決めて、授業、学校行事、朝の会・帰りの会などの様々な教育活動の中で、学級担任が働きかけを工夫しました。第2回のアンケートで複数の項目に上昇が見られた学級の中から、3人の教諭の取組を紹介します。

(1) B教諭の取組

子どもの興味・関心から学習課題を設定する

事例1 総合的な学習の時間 3年 「いろいろな仕事調べ」

社会科「人びとの仕事とわたしの暮らし ～ものをつくるしごと～」で、市内を巡る活動をしたとき、子どもたちは、バスの中から見えた様々な職場で働く人々に関心をもちました。そこで、B教諭は「もっといろいろな仕事があるかもしれないね。」と投げかけ、「いろいろな仕事調べ」というテーマで総合的な学習の時間につなげました。

調べることの楽しさを体験させる（知的好奇心、情報収集）

総合的な学習が始まったばかりの3年生に対して、図書による調べ方や、インタビューの仕方などを指導するとともに、「自分が知らなかったことを調べていくのは楽しいことである」ということを伝えました。

このように、学習する過程で子どもが興味を示したことを基に、次の課題を設定したり、さらに調べさせたり、他教科の学習と関連付けたりすることは、子どもの知的好奇心を高めることにつながると考えられます。

1時間ごとの学びを整理させる（おもしろさ・楽しさ）

B教諭は、総合的な学習の時間では、毎時間の学びを児童に意識させることが大切であると考えています。そこで、毎時間の授業の終わりには、「きょうのなるほど」のコーナーに、学習を通して分かったことを書かせています。自分の学習内容を振り返ることで、分かることや知ることへの喜びを味わい、自分の頑張りに気付いたり、新たな疑問をもったりすることができます。

スーパーマーケット

○調べたこと○

〔レジの仕事〕

レジのところまで買いたいものを持っていくと係りの人がねだんの計算をしてくれます。といっても、ラベルをきかいてらせば、すぐにいくら買ったかがわかるしくみになっています。

〔売り場ではたらく人〕 <中略>

！きょうのなるほど！

スーパーマーケットでは、ならべ方やいろいろとくふうしていてすごい！！

バーコードもついていてべんりていいことがわかった。

話し合いの内容を文字化して、思考を深める（深い思考、有能感）

【話し合いの様子】



〔話し合いにホワイトボードを活用したことの効果〕

- ・発言のキーワードを書くことで、意見の共通点、相違点などをとらえることができる。
- ・出された意見を見ながら練り上げができる。
- ・思考する言葉を共有でき、考えを深めることにつながる。

個のよさが生きる言葉かけをする

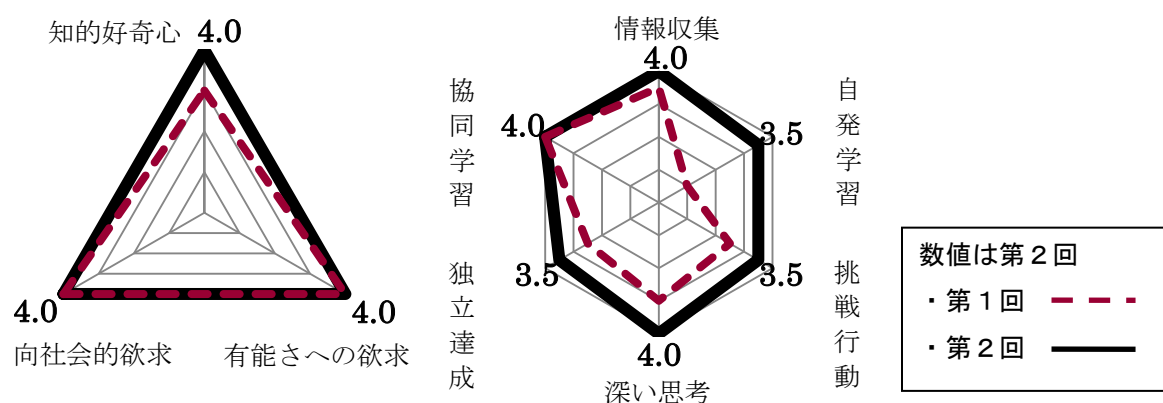
事例2 総合的な学習の時間 3年 「新聞記事から考えよう」

意図的な授業の計画と言葉かけ（自発学習）

Nさんは、じっくり考えたり話し合ったりすることが好きなタイプです。第1回の結果から、他の項目に比べ、「自発学習」の数値が低い傾向にあることが分かりました。

そこで、新聞記事を用いた授業では、Nさんの発言や書き込み等をほめて、学級に広める機会をつくりました。その後、自分から進んで学習に取り組むNさんの姿が見られるようになりました。自分の考えを発表し認められる機会を得たことが、「自発学習」はもちろん、学習行動が全般の伸びに影響しているのではないかと考えられます。

【Nさんの2回のアンケートの比較】



アンケートの結果などを基に、一人一人の児童の傾向を把握した上で、その子のよさを伸ばそうと、意図的に言葉かけをしました。

言葉かけの例

「目の付け所がちがうね」「そういう角度から考えられるんだね」
「一つのことをいろいろな角度から見られてすごいね」

これまで述べてきたように学習課題を工夫したり、意図的に言葉かけを行ったり、学びを振り返らせたりすることで、数値の伸びが見られました。

要素	知的的好奇心	情報収集	挑戦行動	深い思考
第1回	3.42	3.34	3.22	3.30
第2回	3.68	3.58	3.62	3.48

教師の振り返り

- ・学ぶ意欲をはぐくむ働きかけにもいろいろあることが分かりました。
- ・アンケートを実施すると、自分の授業の展開や言葉かけの傾向が分かるので、指導の改善に役立てることができました。

(2) C教諭の取組

C教諭は以前から、学ぶ意欲を育て、学力の向上を図るには、学級経営が基盤となると考えていました。昨年度の4月当初は、友達の発言を嘲笑する雰囲気が学級にあったため、子ども達は、自分の考えを言うことを嫌がるようになりました。そこで、次のような目標を設定し、子ども達に繰り返し話をして、安心して過ごせる学級づくりを目指しました。

○だれもが、気持よく過ごせるクラスにしよう

- ・人を責めない
- ・自分の気持ちを伝える
- ・失敗や間違いは次につながる→間違いに気付いて直すことが大切

目標には、相手を大切にするとともに自分自身も大切にしてほしいという教諭の願いが表れています。そこで、Q-Uテストとソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウターの手法を取り入れて、「安心して学べる環境づくり」で大切な人間関係づくりにあたりました。

人間関係に配慮して安心して学べる環境をつくる

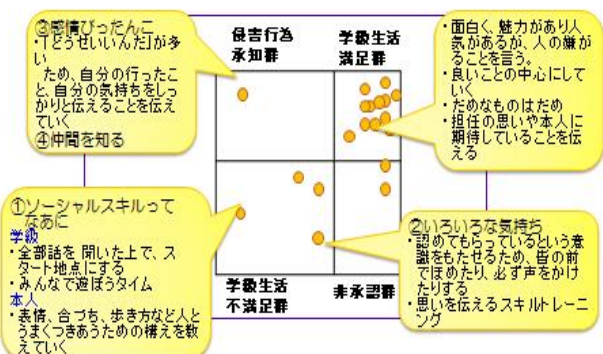
事例3 学級活動 6年 「教室からなくそうNGサイン」

題材のねらい	失敗を責めると逆効果になることに気付き、失敗した人を励ます方法を考え日常で試す。
授業の概要	1 NGのサインを確認する。 2 一生懸命やったのに失敗した時の気持ちを考える。 3 失敗したときに、言われたりされたくないことを考える。 4 失敗した人が元氣ややる気を出す方法を考える。 5 本時の学習を振り返る。

Q-Uテストを活用した学級経営（安心して学べる環境づくり）

C教諭は、様々な教育活動の中で、どの子どもをどのように育てるかを思い描いて日々の指導にあたっています。右図のように、Q-Uテストの一覧表に、子どもの様子や目指す姿、指導方針などを書き込み、ソーシャルスキルトレーニングやエンカウターを通して、よりよい人間関係をつくろうと考えました。このように、思いを目に見えるようにしておくことで、一人一人の子どもへのアプローチの仕方が意識され、成果や課題が実感でき、次の指導に生かすこともできます。

Q-Uテストの一覧表(イメージ)



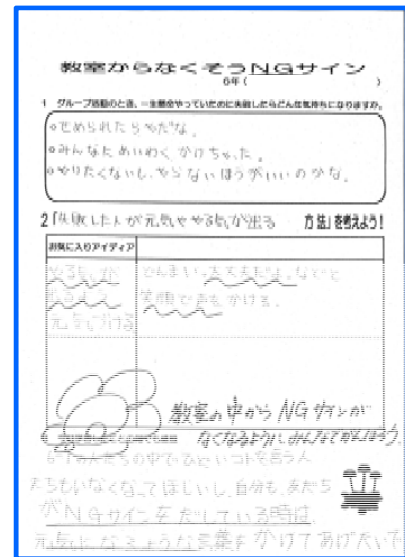
ソーシャルスキルトレーニング、エンカウターの計画

- ①ソーシャルスキルってなあに ②いろいろな気持ち
③感情びったんこ ④仲間を知る etc.

自他を尊重する心を育てる学級活動（安心して学べる環境づくり）

自分たちの問題を真剣に考えて話し合う活動を通して、互いに励まし合いながら学習し、共に成長していくとする気持ちが芽生えてきます。

事例3の他にも、よりよい人間関係を築くためのプログラムとして「あったか言葉とちくちく言葉」「断り上手」「ほめ上手」「頼み上手」などを行いました。これらの取組が功を奏して、互いを尊重する学級の雰囲気ことができました。すると、授業中に「分からない、教えて。」という言葉が出るようになりました。そこで、「教えて 教えてタイム」という学び合いの時間を設けるようにしました。



学び合いで深い思考を促す

事例4 算数6年 「順序よく整理して調べよう」

本時のねらい	順序について、もれや重複がないように調べる方法を考える。
本時の概要	1 本時の学習課題をつかむ。 どのお寿司から調べようかな。～何通りあるか考えよう～ 2 お寿司の食べ方が何通りあるのか考えるときの見通しをもつ。 3 自分の考えた方法で答えを求める。 4 それぞれの解決方法を発表し合う。(グループ→全体) 5 もれや重複がないように調べる方法を確認する。

気軽に学び合う「教えて 教えてタイム」（協同学習、深い思考）

この学級では、個人で考えたり、作業したりする際の話し合い活動を「教えて 教えてタイム」と名付けて、短時間で意見交換をしています。隣の友達とペアで、時には座席が近い友達と数名で気軽に話し合い、学習の進め方を確認したり、友達の考えを参考に自分で解いたりしています。何度も経験するうちに、自分の考えを端的にそして、積極的に話せるようになってきました。

【教えて 教えてタイム】



【グループ活動】

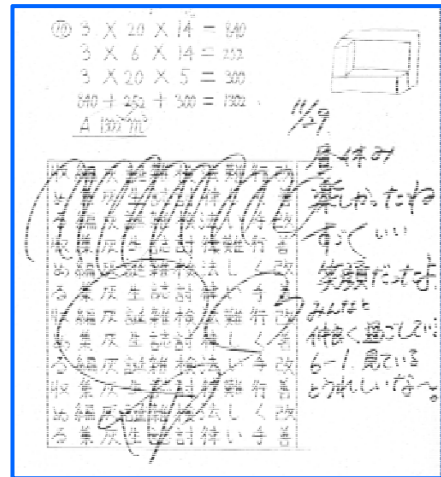


一人一人の子どもを励まして、主体的な行動を促す

自主学习を支援するチャレンジノート（自発学習、有能感）

日常生活の中で、一人一人の子どもに心に届く言葉かけをして、安心感と自信をもたせ、自ら進んで学習できるように支援しています。家庭学習を中心とした自主学习ノートに、学習の内容に対するコメントではなく、教師が観察した子どもの頑張りや成長に対して励ましや賞賛の言葉を書いています。

このことで、「先生は、よいところを見ていてくれる」という安心感が得られて、「もっと頑張ろう」という気持ちが芽生えると考えられます。



【2回のアンケート結果から】

内容	安心して学べる環境	自発学習	深い思考
第1回	3.10	2.85	3.10
第2回	3.34	3.00	3.30

教師の振り返り

学習意欲を高める大きな要因は、安心して学べる環境にあることを確認できました。教師が一人一人を大事にし、望ましい人間関係づくりを支援するような学級経営が、学ぶ意欲を向上させる基盤となると思います。

（3）D教諭の取組

思考の跡を残すことで、考えを深める

事例5 体育4年 「ネット型ゲーム『プレルボール』」

単元のねらい	・ラリーを続けたり、ボールをつないだりして易しいゲームができるようにする。 ・運動に進んで取り組み、規則を守り仲良く運動したり、勝敗を受け入れたりできるようにする。 ・規則を工夫したり、ゲームに応じた簡単な作戦を立てたりすることができるようにする。
授業の概要	1 チームで準備運動をする。 2 本時のめあてを知る。 こうげきの作戦を考えよう 3 作戦をチームで考える。（作戦名を「〇〇こうげき」と付ける。） 4 練習試合を行う。 5 作戦の修正をする。 6 練習試合を行う。 7 作戦がうまくいったかどうか、またその理由など、成果を発表し合う。

子どもの頑張りを家庭に伝える学級通信（有能さへの欲求、充実感）

学級への働きかけの一つとして、学級通信を活用して、子どもの頑張りを家庭に伝えました。練習を開始した時期、大会までの中間期、大会後と、時宜をとらえて、その様子を伝えたことで、家庭での励ましや協力が得られ、子どもの意欲も高まったと考えられます。

【学級通信「スタートライン」から】

☆マラソンカード（11月18日第36号より）
来月の持久走大会に向けて、今週の月曜日からは、業間休みにマッスルタイムとしてマラソンコースを走っています。（略）

今年度は運動委員会の子どもがつくった十数種類のマラソンカードから好きなカードを選んで使うシステムにしました。子ども達はお気に入りのカードを手に、休み時間などを使って走っています。

特によく走っているのが、わが4年D組の子ども達で、業間や昼休みに熱心に走っています。中には下校した後、学校に再び来て、校庭を走っている子どももいます。とてもうれしく思います。「継続は力なり」です。（略）頑張っている子ども達を応援していきます。

☆がんばった持久走大会（12月9日第40号より）

今週の火曜日に、持久走大会が行われました。（略）一人一人がとてもよい走りをしており、日頃の練習の成果が見事に表れていました。（略）普通ですと、友達と一緒にジョギング程度のスピードで走ることが多いのです。しかし、それではせっかくの練習時間がもったいないので、「一人で、黙々と走ること」に決めました。それからは、みんなその通りにがんばり、本番さながらのスピードで走り込みをしていました。そのがんばりが、走力を高める結果につながりました。（略）同じことをするのなら、全力でやった方がよいことは、このことから明らかにになりました。この調子でこれからも練習を続けたら、来年はもっと速くなるにちがいありません。実際に、5年生まで遅かった子どもが一年間練習を続けて、6年生の時に大差で優勝したのを見たことがあります。やればやるほど速くなるのが、持久走なのです。

授業や行事を通して、学級全体と一人一人に考えをもつことや努力することの大切さを働きかけた結果、次のような数値の伸びが見られました。

要素	向社会的欲求	深い思考	独立達成	充実感
第1回	2.77	2.67	2.82	3.33
第2回	3.02	2.97	3.03	3.55

教師の振り返り

アンケートからは、ある要素が低い子どもや、自信がない子どもが見えてくるので、個別の指導に役立ちました。「自分もやればできる」という気持ちになれるように、ほめたり励ましたりすることが大切です。今後も学ぶ意欲を高めるための手立てを考えていきたいと思います。

◆取組のポイント

*以下、学校名を東那須野中と表記

- 年度初めの校内研修で、リーフレット「学ぶ意欲をはぐくむ」を読み、基本的な考え方の共通理解を図った。
- 学習指導案に「学ぶ意欲との関連」を位置付けた。
- 公開授業、授業研究会の後に、学ぶ意欲の向上のための研修を実施し、具体的な取組について情報交換をした。
- 他教科の教諭とのT T授業を組み、互いに指導法を学んだ。

◆学校課題との関連

研究主題：基礎・基本の確実な習得を図りながらコミュニケーション能力を育成する
授業の工夫・改善

東那須野中では、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、それらを活用する力として思考力・判断力・表現力等を育成するには、コミュニケーション能力の育成が必須であると考えて主題を設定しました。まずは、学力の重要な要素であり、確かな学力を育成する上での基盤となる学ぶ意欲の向上を目指し、学校全体で共通理解を図り研究に取り組みました。

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

学校全体の結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
2.78	2.73	3.35	3.42	2.72	1.99	3.14

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
2.73	2.70	2.53	2.77	2.67	2.82

「有能さへの欲求」が高く、生徒は「できるようになりたい」という気持ちをもっていること、授業中に意図的に働きかけることによって、学習行動レベルの構成要素を向上させることができること、この2点について全職員で共通理解を図りました。

それらのことをふまえて、各教員が、学ぶ意欲の向上のためには授業で何ができるかを考え、学習活動の展開を工夫したり、個々の生徒への働きかけをしたりしました。

第2回のアンケートで数値が上がった学級の担任を中心に、聴き取りを行いました。聴き取った内容から、特に学ぶ意欲の向上に結びついたと思われる取組を紹介します。

(1) E教諭の取組

キャリア教育の充実を通して、自己を見つめさせる

事例1 学級活動 2年 「職業について」

単元のねらい	・職業についての興味・関心を深め、自分の理想の将来と照らし合わせながら、職業観や勤労観の基礎を養うことができる。 ・職業について建設的に考え、自分の意見を相手に伝えることができる。
本時の概要	1 学級の仕事に対する意識調査アンケートの結果と働いている人たち（販売業、農業）へのインタビューを聞く。 2 自分たちと働く人の意識の違いについて、個人で考えた後、班ごとに意見をまとめて発表する。 3 自分の将来について大切なこととその理由、今努力できることを考え、発表する。 4 働いている人たちから「今、中学生にとって大切なこと」についてメッセージを聞く。 5 本時の活動の感想を話す。

見通しをもたせ、主体的な活動を促す（自発学習、協同学習）

事前に、学習の意図と職場体験でお世話になる事業所の方にインタビューをすることを生徒全員に伝えました。また、運営担当の生徒には、学級活動当日までの手順を示し、見通しをもたせました。

アンケートの項目や事業所の方へのインタビューの内容などは、生徒達自身が話し合っ

て決めました。

授業では、運営担当の生徒一人一人が分担した役割を担い、話し合い活動を行いました。毎週行われる学級活動の時間に、このような運営の担当者を持ち回りで経験させることにより、自発的に活動したり、友達と協力し合ったりすることができるようになりました。

体験的な学習活動を取り入れる（自発学習、協同学習）

今回の学習では、担当の生徒が、働くことの実際について、事業所の方へ直接インタビューをする活動を取り入れました。その様子を撮影し、学級活動の時間に視聴して、グループごとに「働く人との考え方の違い」について話し合いました。

話し合いでは、生徒たちが、自分の考えを活発に述べ合う姿が見られました。

自分の友達がインタビューしてきたことや、答えてくれた人が身近な方であったことが、働くことについて真剣に考えるきっかけとなりました。

◇アンケートの内容◇

- 1 仕事をしていて一番楽しいこと
- 2 仕事をしていてよかったこと、つらいこと
- 3 仕事をしていて大切なこと
- 4 仕事を通して学ぶことは
- 5 何のために働くのか

現在の自分自身について見つめさせる（向社会的欲求）

実際に働く方へのインタビューでは、「仕事は楽しいことばかりでなく、苦勞も多いこと」「大変さの中にも、消費者に喜んでもらえたときに働きがいを感じること」「厳しさの中にも努力することによる喜びがあること」などが分かり、自分たちの働くことへの考えとの違いを感じ取ることができました。

E教諭は、将来、社会に出て働く生徒たちに、中学生のこの時期にやるべきことを自覚してもらいたいという願いから、インタビューに答えてくださった方に、「今、中学生にとって大切なこと」というメッセージをお願いしました。メッセージを聞いた生徒たちは、自分自身の生活を振り返って、「今、自分たちに努力できること」を文章にまとめ目標を新たにすることができました。

【生徒の感想】

- ・毎日の積み重ねが大切だとわかった。今、自分にできることを考えてやれるようにしたい。
- ・両親や地域の人に感謝し、将来たくさんの人の役に立ちたいと思った。
- ・人間関係やあいさつ、こつこつ努力することなど、仕事において大切なことは、すべて学校生活に関わる大切なことなので、今の自分の生活を見直したい。
- ・働くことの大変さがわかった。「生活のため」だけでなく「家族を幸せにするため」というのが印象的だった。
- ・働いている人は個人的な考えだけではなく、常に広い目で周りを見ることができていて、今の自分たちとは全然違う感じがした。
- ・運営係は準備など一番大変だったと思う。

2年E組は、第2回のアンケートで、次のような数値の伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	向社会的欲求	自発学習	協同学習
第1回	3.21	3.25	2.82	2.77
第2回	3.48	3.54	3.07	3.09

教師の振り返り

- ・働くことについて考えたことにより、自分から行動することの大切さに気付き、今やるべきことに自覚をもつことができました。特に、学習を頑張ろうという気持ちになった生徒が多く、家庭における自主学習への意欲的な取組が見られるようになりました。
- ・生徒が主体となった学級活動を何度か行ったことにより、普段の生活においてクラスに貢献しようとする姿が見られるようになりました。

(2) 第1学年の取組

体験を重視して、情報収集能力の向上を目指す

事例2 総合的な学習の時間 1年 「地域に学ぶ」

1学年の教諭は、書物やインターネットからの情報だけではなく、他の方法で情報を収集するにはどんな方法があるかを考えさせることにより、「もっと知りたい」という気持ちや「次はこんな方法で調べてみたい」などといった意欲につなげたいと考えました。

また、自ら選択した課題を解決して、充実感を味わわせたいという願いから、足を運んでインタビューをしたり、実体験したりする活動を取り入れました。

ねらい	「地域に学ぶ」をテーマに、情報収集や活用の仕方を学ぶ
単元の概要	1 地域の方の講話を聞く 2 各自が課題を決定 3 計画書の作成 4 事前準備（インタビューの事前連絡、質問事項の確認） 5 体験、調査 6 まとめ 7 発表（クラスでの発表→3年生の発表会に参加→保護者参観にて全体発表）

自分の興味に基づき課題を設定する（自発学習）

個人の課題設定に先立ち、学習への関心を高めるために、地域で活躍する製パン業の社長さんをお招きし、講話をいただきました。自分の住む地域には素晴らしい方がいるということを再認識するとともに、自分の郷土に興味を抱き、もっと調べてみようという意欲をもたせることをねらいとしました。

課題設定の際には、那須地区と限定せず、栃木県全体を視野に入れた上で「自分の興味のあるもの」としたことにより、一人一人が意欲をもって取り組むことができました。

【課題例】

「栃木のいちご」「那須塩原の自然」「大鷹の湯」「那須にはなぜ雷が多い？」
「栃木の方言」「栃木に伝わる言い伝え」
「栃木のグルメ」

【調べ方】

◎必ず実体験を伴ったものとする

- ・インタビュー
- ・現地調査
- ・料理、制作 など

課題解決の方法や記録の仕方を選択する（情報収集）

どんな方法で課題解決できるかをそれぞれ考えさせました。そして、郷土料理を実際に作ってみたり、工場見学をしてみたり、現場に行って写真を撮影したりなど、体験を伴う調べ学習を行いました。その後、疑問に思ったことを本やインターネットを利用し、詳しく調べた生徒もいました。

インタビューに行く際には、事前に連絡を取り、質問事項の確認などの準備をさせました。働く人から直接、話を聞くことができたことにより、学校課題であるコミュニケーション能力を身に付けることにもつながりました。

学習のまとめで充実感を味わわせる（充実感）

次のような流れで、発表を行いました。

- 調べたことを模造紙にまとめ、クラスで発表会を行う。
- 3年生の発表会に参加する。
- 3年生の発表をモデルとして、自分の発表の準備をする。
- 学年での全体発表会（保護者を招待）を行う。
 - ・クラスでの発表より自信をもって臨めた。
 - ・緊張感があったが、伝え方は向上していた。
- 友達の発表にコメントを書く。

【発表の様子】



〔生徒の感想〕

- ・インタビューをして相手のことが理解できた。人間性についても学べた。
- ・関係者以外立ち入り禁止の場所にも通してもらい、仕事場の様子が見られた。
- ・みんなまとめ方が上手で、栃木のことをいろいろ知ることができてよかった。次回はもう少し詳しく調べたい。
- ・初めての発表でスムーズにできなかったけれどがんばった。
- ・みんなの発表が参考になった。今後、発表をする機会があったら、もっとゆっくり話したい。

第1学年は、第2回のアンケートで、次のような伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	向社会的欲求	情報収集	自発学習
第1回	3.31	3.45	2.72	2.62
第2回	3.41	3.48	2.83	2.79

教師の振り返り

- ・自分たちの発表の前に3年生の発表を聞いたので、イメージをつかむことができたようです。調べたことを伝えようとする意欲が高まり、よりよい発表を心がけていました。
- ・自分で作成した資料を基に、人前で発表するという経験をしたので、自信をもてるようになりました。

(3) F 教諭の取組

学習の手順やゴールの姿を示し、進んで取り組ませる

事例3 国語 1年 「本の世界を広げよう」

単元のねらい	- 作品の世界に興味をもち、感動の所在を確認しながら読み味わう。 - 豊かなイメージの想像を促す情景・状況の描写や表現に気付く。 - 作品の面白さが伝わるよう想像をふくらませて発表原稿を作成する。
単元の概要	1 選んだ小説の感想を話し合う。 2 4人グループで、前時に読んだ小説を紹介するボードを作成するためにワークシートに沿って意見の交換をする。 3 よい部分を探し、1枚のボードにまとめ、発表原稿を作る。 4 次時の発表に向け3段階に分けてリハーサルを行う。 5 クラス全体に向け発表する。

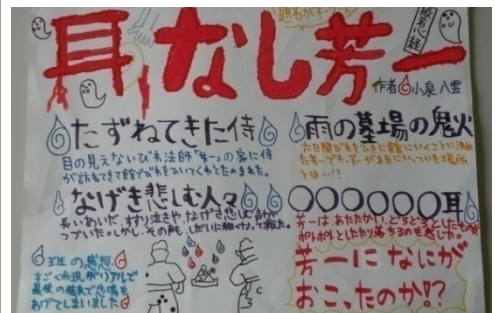
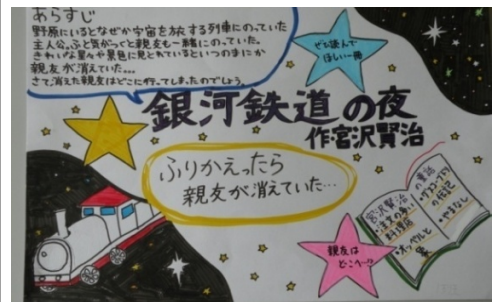
手順とゴールを明確にして取り組ませる（有能さへの欲求、自発学習）

学習の手順やゴールを示すことで、安心して取り組むことができます。単元の始めにねらいと学習の手順を示し、単位時間の始めにも本時の学習の手順を伝えました。単元と本時のゴールを理解し学習の見通しをもつことで、「自分にもできそう」と感じ安心して主体的に取り組むことができました。

【手順を示したワークシート】

発表する。 ← 作品を清書する。 ← 発表するための原稿を作る。 ← 発表練習を行い、アドバイスを受けてより良いものに直す。 ← 各自の資料を班で読み合い、良い部分を合わせてひとつの作品を作る。 ← 感動を読んでいる人に伝えるための資料を各自で作る。 ← （本時） ← 読んでみてどうだったかを話し合う。 ← 小説の続きを読む。 ← 各自の予想を班で話し合い、班の予想を立てる。 ← その後の展開を各自で予想する。 ← 選んだ小説を途中まで読む。	文学作品を読んで、その面白さをほかのグループに伝えよう △手順▽
--	--

【完成作品の例】



自分の考えと友達の考えを比較し、発表の仕方を助言し合う（協同学習、深い思考）

互いの意見を交換することで、考えの違いに気付くことができます。

グループで原稿を書く時には、聞いた人が「その小説を読みたい」と思うような発表にするように伝え、「印象に残った場面や景色」「印象的だった言葉や行動」「特に紹介したい場面」などの視点で考えるように指導しました。

作成した発表資料や原稿を基に、3段階（班の中で→先生の前で→他の班の前で）に分けてリハーサルをしました。それぞれが上記の視点で具体的にアドバイスをし合うことができました。これを生かしてよりよい発表になるように発表原稿を推敲させ、発表本番に臨ませました。

F教諭は、他の単元でも、協同学習をさせた上で発表させる活動を意図的に設定しています。段階を踏んだ発表の準備をすることで堂々と発表ができるようになってきました。このような成功体験をさせて、有能感を高めたいと考えています。

【発表内容について話し合っている様子】



【発表の様子】



1学年の全クラスとも、この授業を実施しました。1学年の第2回のアンケート結果から、次のような伸びが見られました。

要素	有能さへの欲求	自発学習	深い思考	協同学習
第1回	3.31	2.62	2.75	2.92
第2回	3.41	2.79	2.82	2.98

教師の振り返り

- ・グループで取り組ませたことにより、発表用原稿や資料がよりよいものに仕上がりました。
- ・発表も役割を分担したので、一人一人が充実感を味わえたようです。
- ・夏休み中に、発表した作者の他の本も読んだ生徒がいました。

(4) 校内研修の取組

授業研究会では、本時の授業で生徒が意欲的に学習していた場面について話し合い、その後、各教師が取り組んでいる意欲を高めるための工夫について情報交換を行いました。

次に、「学習に関するアンケート」の質問項目別平均値の高い順に並べ替えた一覧表を活用し、自校の課題を確認して、どのような働きかけが必要なのか共通理解を図りました。

「学習に関するアンケート」の質問項目別平均値

要素略称	No.	第2回	第1回	質 問 項 目
向社会的	28	3.67	3.60	思いやりのある人になりたい。
有能さ	15	3.55	3.45	もっとかしこくなりたい。
充実感	3	3.35	3.31	毎日、明るく元気に生活している。
向社会的	9	3.33	3.26	社会のために役立つような人になりたい。
有能さ	8	3.32	3.27	自分もっている能力を十分に発揮したい。

上位には、欲求・動機レベルの要素が多い。

協同学習	11	2.88	2.85	授業では友だちと協力して学ぶことも多い。
独立達成	17	2.80	2.77	できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。
自発学習	19	2.79	2.73	自分から勉強に取り組んでいる。
知的	4	2.78	2.78	よくわからないことは、わかるまで調べたい。
挑戦行動	13	2.78	2.77	今までよりも、むずかしい問題に取り組むことが多い。

おもしろさ	24	2.56	2.54	失敗しても学ぶことはおもしろい。
安心	12	2.32	2.37	先生は学習のことについてほめてくれる。
挑戦行動	20	2.24	2.30	むずかしい問題にであうと、よりやる気がでる。
有能感	10	2.03	2.16	勉強面では友だちからたよられていると思う。
有能感	23	1.77	1.84	自分は勉強はよくできると思う。

具体的な課題が見えてくる。

研修の中で、多くの教師から、「学ぶ意欲の数値の高い生徒は、自分の進路への関心が高い傾向にある」という話がありました。このことから、中学生という発達段階において、キャリア教育を充実していくことは、学習意欲を高めることの手立ての一つであると考えられます。

◆取組のポイント

*以下、学校名を西中と表記

- 校内体制がよく整備され、学年間、教科間での共通理解が図られた。
- 職員の研修を充実させることで、教師としての資質の向上にもつなげた。
- 学習習慣の育成・家庭学習の充実に力を入れていた。
- 環境の整備に力を入れ、生徒の学びたいという気持ちに応えている。それが、教師に対する信頼に結びついた。

◆学校課題との関連

研究主題：自ら学び考える生徒の育成

研究仮説：生徒の学習意欲を高めながら、一人一人の生徒に基礎的・基本的な内容を教え考えさせる授業を行うことで「自ら学び考える生徒」を育成できるであろう。

研究の組織：授業研究部、学力向上部、調査・研修部の3つの部を組織した。

仮説の検証のために、3つの部を中心にして研究に取り組みました。

〔授業研究部〕

- 学習意欲を高めるための工夫の共有
- 研究授業の実践
- 学年部会での学習事項の情報共有
- 開かれた授業の実践

〔学力向上部〕

- 主体的な学習態度の育成
(学習習慣の確立)
- 学びたくなる環境作り
- 家庭学習の習慣化

〔調査・研修部〕

- 学習に関するアンケート分析と課題の提案
- 全国学力・学習状況調査の分析と課題の提案
- 職員研修の充実

◆第1回アンケート結果及び実践の方向性

学校全体の結果

安心して学べる環境	知的好奇心	有能さへの欲求	向社会的欲求	おもしろさと楽しさ	有能感	充実感
2.79	2.69	3.43	3.48	2.78	1.98	3.18

情報収集	自発学習	挑戦行動	深い思考	独立達成	協同学習
2.62	2.72	2.57	2.80	2.81	2.79

数値が上がった学級の担任、学年主任への聞き取りをもとに、3つの部会ごとに事例を紹介します。

（１）授業研究部の取組

授業研究部は、お互いの授業を見合う開かれた授業の実践を推進しています。そのことで得た気付きや同僚の工夫などを参考にして、それぞれの教員が自分の授業改善に取り組んでいます。その取組の中から、いくつかを紹介します。

学習課題を工夫する

事例１ 社会科 ３年 「模擬裁判をやってみよう」

裁判員制度の学習では、出てくる司法用語や概念が難しいため、教師の説明だけではイメージをつかみにくいと思われます。そこで、生徒に裁判のイメージをもたせ理解を深めさせることをねらい、裁判の一部を模擬体験させることにしました。

授業の ねらい	裁判官、検察官、弁護士、裁判員などの具体的な働きを通して、法に基づく公正な裁判によって人権が守られていることを理解させる。
授業の 概要	1 現在の裁判所について学習した後で、裁判員制度の概要を知らせる。 2 シナリオを配付し、事件の概要を説明し、役割分担をする。 3 模擬裁判を行う。 4 判決を考える。 5 裁判員制度による司法への参加の仕方について考える。

模擬体験を取り入れた授業（深い思考）

授業では、指導者の用意した模擬裁判のシナリオを基に、刑事裁判の論告求刑の場面でロールプレイを行いました。そして、それぞれが裁判員の立場であったと仮定して、判決とその理由を考えさせました。

【ワークシートの一部】

＜ワークⅡ＞ 裁判員として裁判にかかわることを、あなたはどのように思いますか。

判決を出すのは難しいし間違った判決を出してはいけないので、中途半端な気持ちでやってはいけないと思う。

＜ワークⅡ＞ 裁判員として裁判にかかわることを、あなたはどのように思いますか。

迷っています。たぶん死刑とかの判決が出たら、耐えられないかなと思います。でも国民が裁判にかかわることによっていろいろな意見が出てくるので、いいと思います。

生徒たちは模擬体験を基にして、実感を伴った感想を記していました。

この事例のように、体験的な学習活動を取り入れるなど、課題や学習活動を工夫し、主体的に判断する場面を設定することで、表面的な理解ではなく、深く考えさせることが可能となります。

事例2 数学 3年 「二次方程式の利用」

数学の学習では、基本的な内容を繰り返し学習させ基礎を定着させることが大切です。

しかし、それだけでは単調な学習になってしまうので、発展的な問題にも取り組ませる場面を意図的に設定しています。今回の授業では、自然数の性質や二次方程式など既習の学習を生かして取り組める課題を設定しました。

授業のねらい	・ 自然数の和を求める方法を考えようとする。 ・ 自然数の性質を利用して、1 から n までの自然数の和を求めることができる。 ・ 2 次方程式を用いて与えられた 1 から n までの自然数の和から n の値を求めることができる。
授業の概要	1 学習内容の確認 【課題】 1 から n までの自然数の和が 666 のとき、2 次方程式を利用して n の値を求めよう。 2 考え方の原理を理解する。 ・ 自ら考えたり友達と相談したりして問題解決のために、整数の性質を用いて求めるよう助言する。 3 課題を解決する。 4 類題を解く。 5 まとめ

発展的な問題への挑戦（挑戦学習）

単に難しい課題を与えただけでは、抵抗感を示す生徒も多いと思われます。そこで考え方の原理を理解させる部分を重視し、友達と相談する時間を設けたり、助言し合ったりするようにしました。その結果、生徒は、難しい課題にもかかわらず、その解決に向けて熱心に問題に取り組むことができました。

基礎・基本の定着に加えて、発展的な学習に取り組ませることも必要なことです。課題の与え方を工夫することで、難しい課題に挑戦しようという気持ちが高まります。また、できたときには「自分の力で解けた」という自信をもつことができ、学習に対する興味や関心を高めることにつながります。

【難しい課題に取り組んでいる様子】



事例3 英語 2年 「How can we find out?」

英語の学習では、基本例文を反復して正確に覚えることが大切です。しかし、例文が生徒の実生活と離れていると形式的な学習になり、身に付かないこともあります。そこで、表現意欲を高めることをねらって、この単元では生徒にとって身近な題材を取り上げました。

授業のねらい	・文の構造を理解し、その例文の意味を理解できる。 ・比較級を含む文の内容を理解し、自然な英文を作ることができる。
授業の概要	1 前時の復習 2 比較級の文の構造についての説明 ・生徒にとって身近な題材を取り上げ、興味・関心を高めながら、比較級の構文・意味・使い方を理解させる。 3 グループ学習で、ばらばらになった語句を並び替えて、文を完成する。 4 完成した英文を書き取り、日本語訳をする。

日常生活と関連させた題材を取り入れた授業（知的好奇心）

【学び合いの様子１】



【学び合いの様子２】



授業では、アニメのキャラクターや、動物、有名人など、生徒にとって親しみやすい題材を視覚的に提示できるよう準備しました。

生徒にとって身近な題材を取り上げたことで、練習する声が大きくなり、いろいろな例文をいくつも作り、友だちと発表する姿が見られました。その後のグループ活動でも、互いに教え合いながら、比較級の文づくりに取り組んでいました。

相互に学び合う場を多く設定する

事例４ 音楽 ２年 「混声合唱の豊かな響きを味わおう」

合唱コンクールの発表に向けて、２学期には各学年とも混声合唱の学習を行っています。指導に当たっては、各パートの練習を中心として、生徒が相互に課題や気付きを出し合う場面を多く設定しました。

授業のねらい	・歌詞の意味や情景を感じ取りながら、曲想表現を工夫することができる。 ・ピアノ、指揮者とともに一体感のある演奏を工夫することができる。
授業の概要	1 本時の学習内容の確認 2 発声練習等 3 各パートの課題の確認 ・各パートによる課題のチェック ・不安箇所の確認 4 伴奏との合わせ

	・録音したものを聴き、更に改善点を見つけさせる。
5	本時のまとめ
	・発表で達成感や感動を味わえるようにアドバイスをする。

合唱の発表を目指した生徒による教え合い（協同学習、充実感）

授業では、各学級ともパート練習や全体練習など、指揮者やパートリーダーなどを中心に、改善点や練習の方針などを確認し合いながら練習に取り組む姿が見られました。教師はそうした取組を認めつつ、向上のためのポイントをアドバイスしたり、励ましたりと受容的な態度で接しました。特に、学習の伸びを認め、ほめることを意識して行いました。

発表会では、各学級とも練習の成果を来場者の前で堂々と発揮することができました。

題材のまとめでは、合唱コンクールについて、指導者の示した観点に沿った自己評価と自由記述による振り返りをさせました。

【生徒による振り返り】

当日、リハーサルをやり、本番は明るくさわやかにということに注意して歌いました。「〇〇（題名）」では、練習して分かったこと、気づいたことを直して歌えたのでよかったなあと思いました。ハーモニー実行委員さんやパートリーダーさん達もすごがんばってくれたのでうれしいです。伴奏者さん、指揮者さんにも感謝です。

△組の団結力がより深まってよかったなあと思いました。来年もこのクラスのこのメンバーでやりたいです。（2年）

問題点はいくつもありました。分からなくなってしまったときは家で練習し、楽譜を読み問題点を一つずつ、つぶしていきました。つぶせなかった点もありましたが、今回は全力を尽くしました。とにかく大変でした。クラスの中でも、みんなで必死に音取りして、みんなで悪い所を話し合ったりしてがんばりました。途中でケンカも少々ありましたが、最後には全員が心を一つにして（歌い）、団結の大切さを学びました。みんなで歌えて、今までで一番楽しかったです。（2年）

この振り返りカードからも、生徒が課題意識をもって学習活動に取り組んでいたこと、協力し合って発表したことにより充実感をもったこと、学級の団結力が強まったことなどが読み取れます。

合唱コンクール以後、「授業の雰囲気が以前にも増して明るくなった」「前向きになった」という声が教師の間から聞かれるようになりました。学級の間関係は、学習に向かう雰囲気づくりに大きく影響を与えます。学習のねらいの達成を目指しつつ、学び合い活動などを積極的に取り入れていくこと、充実感が味わえるように支援していくことが大切であることが分かります。

学習状況について情報を共有する

日常的な情報交換

西中では、日頃から教員が、積極的に情報交換をしています。生徒指導についてはもちろん、教科についての情報も共有することにより、教科の枠を超えた授業研究がすすめられています。

また、生徒の学習意欲を高めるために、個々の生徒の授業に対する取組を知らせ合うことを意識的に行っています。休み時間や放課後に生徒のよいところを伝え合う会話が日常的に交わされています。

そうした生徒に関する情報は、生徒に対する多面的な理解に役立つとともに、指導の充実につながっています。

(2) 学力向上部の取組

学力向上部では、「主体的な学習態度の育成」「学びたくなる環境作り」「家庭学習の習慣化」を柱として、特色ある取組を行っています。それぞれの柱に関する取組について紹介します。

学習習慣を確立する

目指す生徒の姿を共有（安心して学べる環境）

西中では、主体的に学習する態度を身に付けさせるために、よい学習習慣を身に付けさせることを重視しています。

教職員が同じ歩調で指導に当たるために、学年部会や打合せなどを利用し、学年が同歩調で指導に当たるための確認をしています。

例えば、今年度の第1学年では、卒業時には「規律を守り、自己表現ができる生徒」に育てるという目標を教職員が共有しています。

そのために、次の2点を1学年の重点目標に掲げ、指導に当たっています。

○人の話をよく聞く。

○日々の授業において、失敗や間違いを責めない。

この目標を学年朝会など、機会あるごとに生徒に伝えることで、目指す姿の共有化を図り、学びに向かう集団づくりに取り組んでいます。

規律というと窮屈なもの、守らねばならないものという印象もありますが、やはり学習を成立させるうえでは必要不可欠です。学びに向かう集団の中で学習し、学ぶ意欲が高まれば、自己表現の力が身に付き、それを発揮できるのではないかと考えています。

学びたくなる環境を整備する

自主的な学習への支援（自発学習、向社会的欲求）

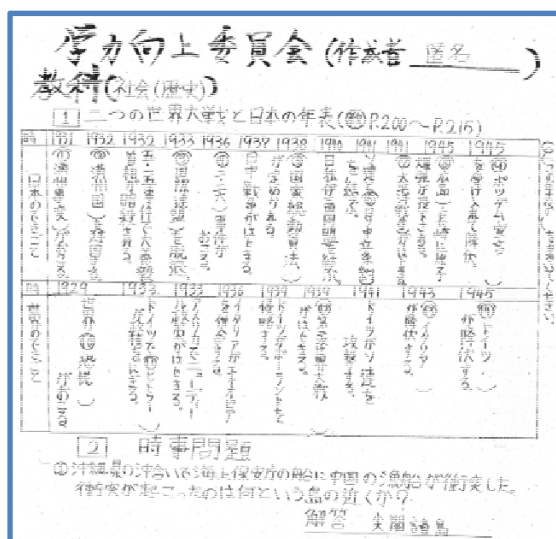
生徒の学習を支援するため、工夫のある取組が展開されています。例えば、生徒を取り巻く物理的な環境の整備にも力を入れています。教室や廊下の空きスペースに簡易な問題を掲示し、学習への意識を啓発しています。身近なところに授業で学習した問題があることは、学んだことの確認にもなり、学習内容の定着にもつながっています。

西中には、委員会活動として学力向上委員会があります。この委員会の活動の一つとして、各教科で学習した内容について、委員が学習プリントを作成しています。委員は問題づくりに協力し合って取り組んでおり、他の生徒は、このプリントを活用しています。

多目的スペースを活用した学習会（自発学習）

2階廊下の多目的スペースには、進路に関する資料や問題集などを集めた書架が置かれています。昼休みにそのスペースを活用して、生徒たちの質問を受け付ける学習会を行っています。指導に当たるのは、3学年の教員が中心ですが、どの学年の生徒も気軽に利用しています。特に、2学期以降は、3年生の進路に対する意識が高まり、利用する生徒が多くなりました。

【学力向上委員会のプリントの一部】



【昼休み学習会の様子】



家庭学習の習慣化を支援する

家庭学習への支援（自発学習）

進路の選択に向けて、様々な形で学力の向上を目指した取組がなされています。

例えば、ある学級では、基本的な問題を中心とした家庭学習用の学習プリントを配布し、提出させています。提出させたプリントは、学級担任が確認をし、間違った箇所について簡潔な解説を書き加え、生徒に返却しています。先生の励ましのコメントが添えられており、生徒に好評です。

毎日繰り返すことで、生徒から問題の解き方について質問が出されるようになってきました。このように、生徒の学力向上に熱心に取り組む先生の姿は、生徒のやる気を高め、家庭学習の習慣作りによい影響を与えます。

（３）調査・研修部の取組

調査・研修部では、「学習に関するアンケート」「全国学力・学習状況調査」等、諸検査の分析や、参考図書の紹介を通して、各部に様々な提案をしています。

学習に関するアンケートを定期的実施する

アンケートの分析と活用

西中では、アンケートを６月と１２月に実施しました。定期的の実施し、生徒の学習意欲の変容をとらえることは、日々の指導について振り返るきっかけにもなります。

生徒の学習意欲は一定ではありません。全体的な傾向とともに、顕著な特徴を示す生徒などをとらえることで、個に対する指導の充実を図ることも可能になります。

〔教師の声〕

- ・生徒によって学習意欲の差が大きいので、課題解決の支援の仕方を工夫する必要があると感じた。
- ・ペアワークやグループ活動を取り入れ、協力して学ぶ機会を設けるようにした。
- ・結果を見て、これまで以上に個々の生徒に目を向けるようになった。
- ・思考が必要な発問を設定するように心がけた。
- ・長い間教師をしていると、授業の進め方に偏りが出てくると感じたので、様々な要素を意識していく必要を感じた。

中学校では、教科担任制がとられているため、アンケートの結果を自分の指導と関連付けてとらえにくいという側面があります。結果の分析は、一部の教員だけではなく多くの教員で行い、更なる改善に向けて協力できる体制を作ることを目指しています。

職員研修の充実

調査・研修部の実践内容の一つに、職員研修の充実があります。具体的には、「参考図書の紹介」や「学習意欲や言語活動に関する本の紹介」などを行っています。

調査・研修部に所属する教員が、分担して参考図書を読み、概要をA4版用紙1枚程度のレジュメにまとめ、校内研修の際に全員に説明するというものです。これは、生徒に主体的な学びを促すには、まず「教職員が意欲的に学ぶことが大切なのではないか」という考えのもとに実施されています。

夏休みには、次のような参考図書の紹介がありました。こうした紹介は、多くの教員から好評を得ています。また、併せて「学習に関するアンケート」の結果やデータの見方についても夏休みを利用して共有する機会を作っています。

【参考にした図書】

- ・志水宏吉 「『学力』を育てる」
- ・エドワード・L・デシ+リチャード・フラスト 「『人をのばす力』内発と自律のすすめ」
- ・辰野千尋 「科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法」
- ・波多野諄余夫・稲垣佳世子 「知的好奇心」

【調査・研究部のレポートの一部】

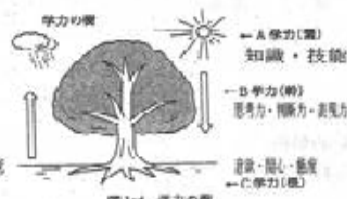
『学力』を育てる 志水宏吉 著

はじめに プロローグ 私の「学び」との出会い 第1章 学力をどう捉えるかー「学力の樹」 第2章 子どもたちの学力はどうなっているか 第3章 学力の基礎はどう形づくられるかー家庭の役割 第4章 いかに基礎学力を保障するかー学校の役割 第5章 「学力の樹」をどう育てるかー地域の役割 エピローグ 公立学校の未来を考える

●はじめに 学力とは「わかる力」と「つなぐ力」である。
「わかる」とは「分かる」であり、物事をちゃんと分けて捉えること。その分けられた個々の要素を関連づけて把握し、部分部分を「つなぐ」ことによって、ひとつの全体を理解する。
「わかる」は分析であり、「つなぐ」は総合である。この2つをバランスよく、子どもに身につけさせることこそ、学力を育てること。

●学力の樹

「三つの学力が文字通り一体となって、ひとつの学力の樹を形づくっている」p39
「その子の持ち味、その子の個性を的確に見極めることがきわめて重要。その子にあった働きかけその子にあった環境を用意することが大切」p42 「樹はグループで育つ」p42
「おそらく最も大事な部分は「根っこ」である。あるいは「根っこを育む」ことである p 47



これまでの取組について、学ぶ意欲を高める上で効果的であった事柄を質問したところ、次のような回答を得ました。

教師の振り返り

- ・授業を互いに見合うことは、生徒の多面的な理解につながると感じました。
- ・TTによる授業も可能な限り導入しました。結果として、授業を「見られる」ことに対する抵抗感がなくなり、積極的に授業を見合うようになりました。
- ・年間5回の計画訪問の授業研究会を予定している他、授業の中で意欲を高めるための働きかけを見合うことは、自分の授業を考えるきっかけになりました。

コラム

【教師の働きかけと児童生徒の変容との関係】

教師が重点的に働きかけた構成要素と、「学習に関するアンケート」における児童生徒の意欲の伸び率を示したものが、下のグラフです。

教師が「重点的に働きかけた」と回答した割合が高かった項目の中で、特に「知的好奇心」と「協同学習」に着目してみます。

「協同学習」は、児童生徒の数値が高まっていることから、教師の働きかけが有効に働いていると考えられます。

一方、「知的好奇心」は、教師が働きかけたと回答した割合が最も高かったにも関わらず、児童生徒の数値は下がっています。

このことから、教師の働きかけが意欲の高まりにつながりやすい構成要素と、つながりにくい構成要素があることが分かります。

「知的好奇心」については、指導の工夫により「おもしろそうだ」と子どもが感じる場面は多々あります。しかし、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」といった「知的好奇心」にまで高めることは、容易ではないことが分かります。

伸びにくい要素については、根気強く継続的に働きかけをするとともに、働きかけ方についてもさらなる工夫が求められます。



◆調査概要

対象 協力校4校の教員（小学校：22名 中学校：44名）

実施時期 平成22年11月（第2回の児童生徒のアンケートと同時期）

質問項目 「学ぶ意欲をはぐくむ構成要素の中で、重点的に働きかけたのはどの要素ですか。」